

令和 7 年 10 月 28 日

企画展「^{ひこねはんじゅがく}彦根藩儒学^{たいどう}の胎動

—新たな学びの 18 世紀—」を開催します

このたび、彦根城博物館において、みだしの展覧会を開催いたしますのでお知らせします。
つきましては、広報についてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 展覧会名称

企画展「彦根藩儒学の胎動—新たな学びの 18 世紀—」

2 会 期

令和 7 年(2025 年)11 月 8 日(土)～12 月 7 日(日) 会期中無休

開館時間：午前 8 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

3 会 場

彦根城博物館 展示室 1

4 展示の趣旨

儒学は、^{こうし}孔子（前 552 頃 - 前 479）を開祖とする社会思想である儒教を根本とし、中国^{なんそうじだい}南宋時代の^{しゅき}朱熹（^{しゅし}朱子）（1130-1200）らにより体系的な学問となり、日本にもたらされました。儒教のうち、とりわけ儒教道徳に基づく上下の秩序を重視する朱子学は、江戸時代には、幕府や各藩により社会・政治秩序を安定的に保つ上で役立つ学問として重んじられ、また、その教えを平易に紹介した版本の普及により、武士から庶民にまで広く浸透していきました。

彦根藩では、立藩以来、学問よりも武芸を尊ぶ気風がありましたが、17 世紀末以降、儒学を積極的に学ぼうとする人々が現れます。18 世紀前半にかけては、京都の朱子学者^{あき み けい さい}浅見綱斎（1652-1711）とその弟子^{わかばやしきやうさい}若林強斎（1679-1732）の教えが広まり、一部の藩士や町人らに受け入れられました。とくに、強斎とその弟子は、彦根城下や^{たかみやしゆく}高宮宿（彦

根市高宮町）において、講師が受講者へ講義する「講釈」によって儒学の經典を読解して教授し、多くの聴衆を集めました。

18 世紀前半からは、儒学を現実の政治に活かそうと試みた江戸の儒学者荻生徂徠（1666-1728）の教えも彦根の中・下級藩士を中心に受容されます。彼らは、同じ書物を輪読して対等に議論する「会読」の場を設け、儒学の經典を解説して、その解釈について議論を交わし、ときにはその議論が政治批判に発展することもありました。

18 世紀後半には、それまで好学の藩士を中心に学ばれていた儒学は、藩内で家臣教化の要として認められるようになりました。さらには、徂徠の教えを重視した彦根藩士野村東皐（1717-84）らにより、儒学によって人材を養成する場の必要性が説かれるなど、学校創設の機運が高まります。そして、その機運は、藩校稽古館の設立という形で結実し、彦根藩士が儒学を学ぶ体制が整えられました。

本展では、藩校創設につながる彦根藩における儒学の受容の様子や、人々の学びの実態を紹介します。

5 展示作品

別添リストの 45 件

6 観覧料

一 般 700 円（560 円）

小・中学生 350 円（280 円） （ ）内は 30 名以上の団体割引料金

*他の展示室も併せてご覧いただけます。

7 関連事業

(1) ギャラリートーク

日 時：令和 7 年(2025 年)11 月 8 日(土) 午後 2 時～ *30 分程度

会 場：当館展示室 1

参加費：無料 *展示室の入室には、観覧料が必要です

講 師：柴崎謙信（当館学芸員）

(2) 関連講演会「向学の時代—18 世紀彦根の儒学者たち—」

日 時：令和 7 年(2025 年)11 月 15 日(土) 午後 2 時～3 時 30 分

*受付は、午後 1 時 30 分から開始します。

会 場：当館講堂

資料代：100 円 *展覧会の観覧には、別途、観覧料が必要です。

定 員：50 名（当日受付、先着順）

講 師：柴崎謙信（当館学芸員）

8 展示担当者

彦根城博物館 学芸史料課 柴崎 謙信

（連絡先）所在地：〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1番1号

電 話：0749-22-6100 FAX：0749-22-6520

E-mail：museum@mx.hikone.ed.jp

企画展「彦根藩儒学の胎動―新たな学びの18世紀―」展示作品リスト

No.	指定	名称	数量	著者等	年代	所蔵
1. 儒学の時代						
1		ろんごしゅうちゅう 論語集註	4冊	しゅき はんやしらざん 朱熹 著 林羅山 校点	南宋時代 成立 江戸時代 刊	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
2		だいがくしょうく 大学章句	1冊	朱熹 著 林羅山 校点	南宋時代 成立 江戸時代 刊	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
3		ちゅうようしょうく 中庸章句	1冊	朱熹 著 林羅山 校点	南宋時代 成立 江戸時代 刊	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
4		もうししゅうちゅう 孟子集註	4冊	朱熹 著 林羅山 校点	南宋時代 成立 江戸時代 刊	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
5		「行義以達其道」「發思古之幽情」印	1顆		江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
6		「黙而成之不言而信」「民惟邦本本固邦寧」印	1顆		江戸時代	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
7		ぶげんせいりく 武家嚴制録	10冊のうち1冊		江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
8		にじしよじゅんこう 二字書「順行」	1幅	とくがわつなよし 徳川綱吉 筆	元禄9年（1696）	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
9		やまとぞくくん 大和俗訓 卷二	5冊のうち1冊	かいばらえきけん 貝原益軒 著	宝永6年（1709） 刊	彦根城博物館（琴堂文庫）
10		二十四孝	1冊	なんりていきらく かつしか ほうさい 南里亭其楽 著 葛飾北斎 画	文政5年（1822） 刊	彦根城博物館（琴堂文庫）
11		あかえきんさいよぼうがたしゅはい 赤絵金彩四方形酒盃	1口		江戸時代～明治時代	個人
2. 浅見綱斎・若林強斎の学問と彦根						
12		きんしろく 近思録	5冊	りょそけん やまさきあんさい 朱熹・呂祖謙 編 山崎闇斎 校点	寛文10年（1670）成立 文政2年（1819）刊	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
13	小浜市指定文化財	あさみけいさいしやうぞう 浅見綱斎肖像	1幅		江戸時代	小浜市立図書館（西依家文書）
14	小浜市指定文化財	せいけんいげんこうぎ 靖献遺言講義	1冊	浅見綱斎 講	元禄2年（1689）	小浜市立図書館（西依家文書）
15		あさみけいさいしよじょう にしおてきあんあて 浅見綱斎書状 西尾惕庵宛	1通	浅見綱斎 筆	江戸時代中期	個人（三居孫太夫家文書）
16	小浜市指定文化財	ぼうなんしよぶん 望楠所聞	2冊のうち1冊	やまぐちふうえん 山口風簷 編	天明年間（1781～1789）	小浜市立図書館（酒井家文庫）
3. 若林強斎と高宮						
17	小浜市指定文化財	わかばやしかふ 若林家譜	1冊	わかばやしきやうさい 若林強斎 著	元禄14年（1701）	小浜市立図書館（西依家文書）
18	小浜市指定文化財	若林強斎肖像	1幅		江戸時代	小浜市立図書館（西依家文書）
19		若林強斎書状 西尾惕庵宛	1通	若林強斎 筆	享保16年（1731）	彦根城博物館（西尾隆治家文書）
20	小浜市指定文化財	ざつわぞくろく 雑話続録	3冊のうち2冊	若林強斎 述 やまぐちしゅんすい 山口春水 筆録	江戸時代中期	小浜市立図書館（酒井家文庫）
21	小浜市指定文化財	だいがくじやこうぎ 大学序講義	1冊	若林強斎 講 あさみぶんじろう 浅見文治郎 筆録	江戸時代中期	小浜市立図書館（酒井家文庫）
22	小浜市指定文化財	すいかれいしやさいこうかんじやうさいき 垂加靈社再興勸請細記	1冊		江戸時代後期	小浜市立図書館（西依家文書）
23	小浜市指定文化財	七言律詩「老成縫掖久知賢・・・」	1巻	うつぎひさずみ 宇津木久純 筆	寛政3年（1791）	小浜市立図書館（西依家文書）
4. 荻生徂徠の学問と彦根						
24		たいへいさく 太平策	1冊	おぎゅうそらい 荻生徂徠 著	享保年間（1716～1736）	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
25		そらいせんせいもんどうしよ 徂徠先生問答書	1冊	荻生徂徠 著	享保12年（1727） 刊	京都大学附属図書館
26	滋賀県指定文化財	はっとりなんかくしよじょう きまたもりさだあて 服部南郭書状 木保守貞宛	1通	服部南郭 筆	江戸時代中期	彦根城博物館（木保清左衛門家文書）
27		けんえんしやうしゅうず 護園小集図	1幅	おおおかうんぼう あさがわぜんあん 大岡雲峰 画 朝川善庵 賛	文政8年（1825）	京都大学総合博物館

28		きんしょさんじんこうさん 琴所山人稿刪	1冊	さわむらきんしょ たねむらきざん 沢村琴所 著 種村箕山 編	宝暦2年（1752）刊	京都大学附属図書館
29		五言律詩「十歳董惟下…」	1幅	沢村琴所 筆	享保7年（1722）	個人
30		まえじましかんのしょ 前島死諫之書	1冊	まえじまやじえもん たなかつぐよし 前島弥次右衛門 筆 田中世誠 写	寛延2年（1749）成立 天明3（1783）写	個人（宇津木三右衛門家文書）
31		しがくべんぼう 詩学弁髦	2冊	種村箕山 著	寛政11年（1799）刊	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
5. 野村東皐の学問と彦根						
32		じょうえんしゅう 藝園集 前編 第二	5冊のうち4冊	のむらとうこう 野村東皐 著	明和7年（1770）	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
33		藝園集 前編 第六	5冊のうち1冊	野村東皐 著	明和7年（1770）	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
34		こうよしだん 講余私談	1冊	野村東皐 著	明和5年（1768）	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
35		さんおうこくごこう 三翁国語考	5冊のうち1冊	野村東皐 著	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
36		ちょうからうがさん 張果老画賛	1幅	もちづきぎよくせん 望月玉蟾 画 野村東皐 賛	江戸時代中期	彦根城博物館（山口順一郎氏寄贈）
6. 藩校稽古館開設						
37		でんたつそうろがぞう 人物図（伝龍草廬画像）	1幅	とみとらん しもつけのあつみつ 富士卵（下毛野敦光） 画	江戸時代中期	個人
38	重要文化財	さむらいじゅうゆいしよちょう 侍中由緒帳（龍衛門家）	80冊のうち1冊		元禄4年（1691）～明治4年（1871）	彦根城博物館（彦根藩井伊家文書）
39		硯 銘「墨池」	1面		天明4年（1784）	個人
40		七言古詩「春江花月夜」	1巻	龍草廬 筆	天明3年（1783）	彦根城博物館（井伊家伝来資料）
41		がくもんのこころえ 学文乃意得	1冊	野村東皐 著	江戸時代中期	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
42		学校考	1冊	おおすがなんば 大菅南陂 著	江戸時代後期	彦根城博物館（井伊家伝来典籍）
43		けいこかんおきてうつし 稽古館掟 写	1通	いいなおなか 井伊直中 著	寛政11年（1799）	彦根城博物館（神野潔氏収集文書）
44		稽古館規約達書	1通		寛政11年（1799）	個人（宇津木三右衛門家文書）
45		弘道館図面	1枚	なかむらふのうさい 中村不能齋 編	明治時代	彦根城博物館（井伊家伝来古文書）

作 品 解 説

1. 二字書「順行」 1幅 (作品リストNo. 8)

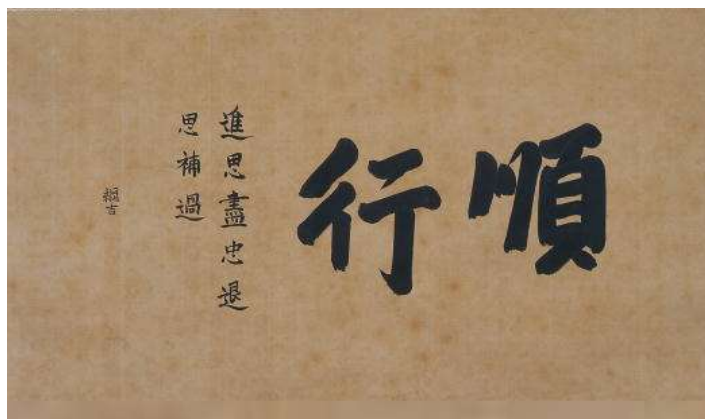
徳川綱吉筆

縦 50.3cm 横 85.7cm

元禄9年 (1696)

当館蔵 (井伊家伝来資料)

五代将軍徳川綱吉直筆の書。本作品は、綱吉が諸大名に対して儒学書の講釈を行った際に、井伊家四代直興が綱吉から拝領したものです。儒学に傾倒していた綱吉は、儒教道德に基づいた上下の秩序を重視し、それによって太平の世の社会を統治していくことを目指しました。「順行」とは、儒教の教えで道理に従うことを意味する言葉です。また、その左



には、家臣は君主への忠孝を忘れてはならないとする「孝経」(孔子が「孝行の道」について説いた儒教の經典の一つ)の一説が記されています。

2. 若林 強斎肖像 (部分) 1幅 (作品リストNo. 18)

小浜市指定文化財

縦 108.0cm 横 28.0cm

江戸時代

小浜市立図書館蔵 (西依家文書)

高宮 (彦根市高宮町) ゆかりの儒学者 若林強斎 (1679-1732) を描いた肖像画。京都で生まれた強斎は、同地で儒学を学び、頭角を現しました。強斎にとって高宮は、崇敬する多賀大社の参道の入口に位置していただけでなく、妻北川氏の出身地で親類も多くいたことから、特に縁のある地でした。遅くとも享保6年(1721)頃からは、強斎は毎年正月と7月に同地へ逗留し、儒学書の講義を行っていたこともわかっています。

本作品は、作者は未詳ですが、強斎の姿をうかがい知ることのできる貴重な資料です。



3. 垂加靈社再興勸請細記 1冊 (作品リストNo. 22)

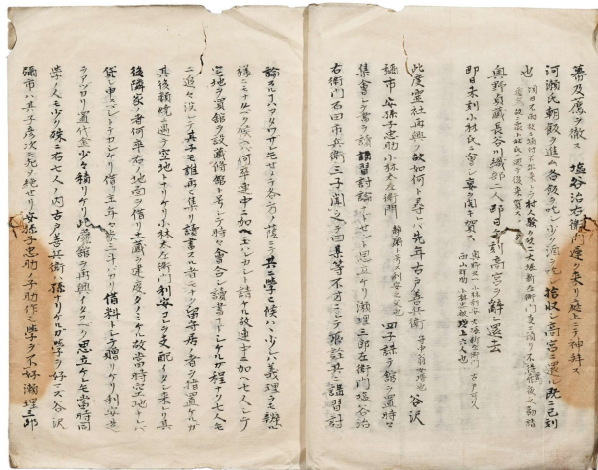
小浜市指定文化財

縦 28.0cm 横 20.0cm

江戸時代後期

小浜市立図書館蔵 (西依家文書)

享保9年(1724)、若林強齋は、高宮の門人の邸内に、垂加神道(江戸時代初期に確立した神道一派)の祖山崎闇齋を祀る垂加靈社を勸請しました。本作品は、寛政4年(1792)にそれを再興した際の記録です。本作には、高宮の強齋の門人たちが、「蔵脩館」という学習施設を建て、自主的に読書や討論を行っていたことが記されています。強齋の門人たちの日々の学びの様子が具体的にうかがえる稀有な資料です。



4. 琴所山人稿刪 1冊 (作品リストNo. 28)

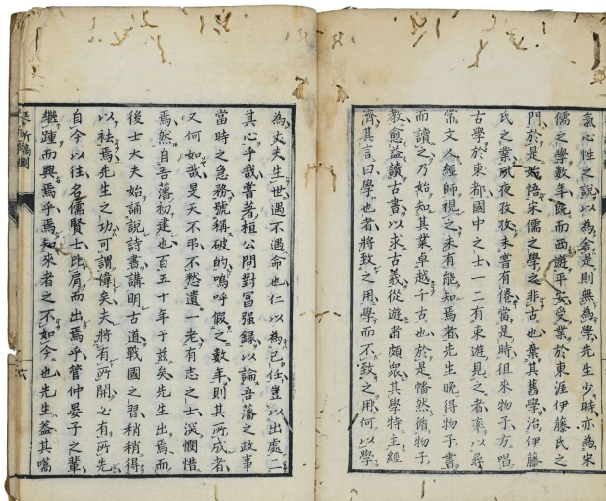
沢村琴所 著 種村箕山 編

縦 27.2cm 横 18.0cm

宝暦2年(1752)刊

京都大学附属図書館蔵

彦根藩士で儒学者の沢村琴所が詠んだ漢詩を、門弟の種村箕山が編纂した書物。18世紀前半、彦根藩では、儒学を現実の政治に活かそうと試みた江戸の儒学者 荻生徂徠の学問が、中・下級藩士を中心に広がっていきました。この普及の主たる担い手となった人物が琴所です。本作品の末尾には、琴所の行状を記した墓碑の銘文が収録されています。そこには、琴所によって彦根藩領内に徂徠の学問が広められたことで、それまで学問を軽視していた彦根藩士が初めて詩書を読み、学問を志すようになったと記されています。琴所は彦根に新たな学問の風をもたらした先駆者として知られたことがうかがえます。



5. 三翁国語考 5冊のうち1冊 (作品リストNo. 35)

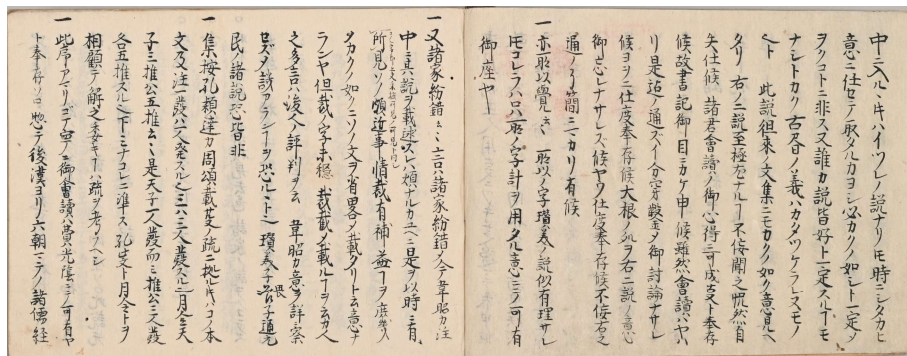
野村東皐 著

縦 13.5cm 横 19.0cm

江戸時代中期

当館蔵 (井伊家伝来典籍)

当時江戸詰めであった彦根藩士で儒学者の野村東皐が、「国語」(中国春秋時代(前770-前453)の歴史書)の会読をめぐり、彦根の朋友と交わした書翰などを記録したもの。東皐は江戸の儒学者 荻生徂徠に私淑し、朋友とともに務めの合間を縫って、徂徠が推奨する会読や詩会などの学問活動を日常的に行いました。会読は、複数人が集って一つのテキストを読み、議論を通じて理解を深めていく学習法を指します。師弟関係によらず、対等に意見をぶつけあうことを範とした画期的な学習法でした。本作品からは、江戸と彦根に離れていても、書簡を交わすことで会読を行っていたことがわかります。彼らの活発な学問活動の一端がうかがえる資料です。



6. 学文乃意得 1冊 (作品リストNo. 41)

野村東皐 著

縦 27.8cm 横 20.4cm

江戸時代中期

当館蔵 (井伊家伝来典籍)

野村東皐が自身の学問観をまとめた書。本作品には、東皐が、当時教育係を務めた井伊家10代直幸の庶子(跡継ぎ以外の男子)たちに対して、主君として有能な人材を組織する術を身につけることが肝要であると説いたことが記されています。後にこの提言は、藩士を学問によって教育する機関 稽古館(藩校)の設立という形で結実しました。

